

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」

たまちゃん通信

平成31年1月発行 107-1

発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町10番1号

TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311

e-mail：honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

【新連載】①

お手玉が脳にとって良いのか否か

脳科学者・日本のお手玉の会顧問 森 昭 雄

第1回 はじめに-お手玉と脳の働き-

私の方から日本のお手玉の会に、伝統文化の一つであるお手玉を脳科学的に分析したものを、皆様にも少しでもお役に立てればと提言したところ、快く承諾のご返事を頂きました。

そこで、ネットを使い「お手玉が脳にとって良いのか否か」を2019年1月から毎月、連載形式で掲載することになりました。

これから連載する内容は、少し脳科学的な話を中心としたものになります。第1回目は、これから掲載する総論的な話になります。



(写真は森昭雄教授)

まず、私の自己紹介からしたいと思います。私の専門は、生理学の一分野である脳科学です。生理学は、どのような学問であるのか疑問を持っている人がいると思います。簡単に言えば「生体の機能を追求する」学問です。今、振りかえてみると何と、これを海外の研究も含めて45年間やってきたわけです。研究が好きだからこそ、長く続いたのだと思います。

「なぜ？」が好きで基礎科学の生理学の道を選んだ

私は無いものや疑問を追求するのが好きで、たとえば、心臓は、「なぜ」必要で何をしているのか？ 脳は、「なぜ」必要で何をしているのか？ 呼吸は、「なぜ」必要で、停止していたとしたら生体でどのようなことが生じるのか？ 他の臓器も同様です。

このように、「なぜ」が伴うのです。ノーベル賞でも医学・生理学賞と呼んでいるように、必ず生理学という文字が入っています。私はニューヨークにあるロックフェラー大学で研究していたときは、ここの教授陣にはノーベル賞受賞者が6人ほどいて、これまで25名のノーベル賞受賞者がでています。大先輩で野口英世博士がここで研究をしていました。彼の使用していた顕微鏡なども保存されています。野口英世博士の銅像は、図書館の入口を入ったところに初代のロックフェラーとドワーを挟んで並行に位置しています。しかも、他のノーベル賞受賞者は写真のみで、銅像はありません。

この医学分野でも「なぜ」と言うことが重要なのです。私は、この「なぜ」が好きでこの道を選びました。私ごとになりますが、医学部時代に教授から臨床医になったらと言われたのですが、臨床医になっても、私は「なぜ」が好きで基礎医学である生理学の道を選んでしまうと思い断りました。